

令和6年度 二戸地域県立病院運営協議会 開催結果（要旨）

1 開催日時

令和6年11月11日（月）14:00～15:30

2 開催場所

岩手県立二戸病院 地階大会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員

田中 辰也	藤原 淳	小野寺 美登	山本 賢一	大久保 勝彦
阿部 博	森谷 俊樹	山口 金男	大道 正樹	田名部 晴夫
日向 和彦	佐藤 美沙子	三浦 和枝	永井 美保子	田口 ケイ子
佐藤 勝子				

（2）事務局

医療局	医療局長 小原 重幸	医療局次長 佐々木亨	医事企画課総括課長 鈴木 清志
	医師支援推進室医師支援推進監 高橋 ゆかり		
二戸病院	院長 小笠原 敏浩	事務局長 藤本 繁	総看護師長 遠藤 和江
	副院長 及川 浩	副院長 高橋 浩	副院長 小成 晋
	副院長 西山 理	副院長 御供 真吾	事務局次長 西川 栄樹
	医事経営課長 遠藤 健一	総務課長 澤口 博樹	
一戸病院	院長 佐々木 由佳	事務局長 後藤 利徳	総看護師長 清水 幸代
軽米病院	院長 葛西 敏史	事務局長 青木 康繁	総看護師長 上山 純子

4 議事

（1）開会（事務局）

（2）委員紹介（事務局）

（3）会長あいさつ（藤原二戸市長）

（4）二戸病院長あいさつ（小笠原院長）

（5）医療局長あいさつ（小原医療局長）

（6）議事

県立病院運営協議会等要綱に基づき、藤原会長が議事を進行

① 岩手県立病院等の経営計画（2025-2030）（素案）について

医療局長から説明

〔質問・意見等〕

○ 田中委員

医療局といますか、県として考えているハイボリュームセンター化の件で、がん、心疾患、脳疾患の3つの領域の中で、特に脳疾患・心疾患については、治療開始の時間が、その後の予後へ大きく影響するため、集約する事は良いが、本当に県民の命を守ってくれるものなのかというところを非常に心配している。その辺の説明がなかったかなと思いますので、説明をい

ただきたいと思います。

○ 小原医療局長

今回の県立病院の経営計画は、大きく2つの方向性を示しております。

人口減少が進む中で、高度専門医療にどう対応していくかということについて、今回の経営計画では、県内で安定的に高度専門医療が受けられる体制をつくることとしております。

もう一方で、民間病院が立地しにくい地域については継続して、県立病院が同様の役割を担っていくこととしております。

その中で、県の第8次保健医療計画では、2次保健医療圏を越えて、がん、脳卒中、心血管疾患については、9医療圏を取りまとめるような疾患別の医療圏としておりますので、県立病院もそれに対応していく必要があると考えております。

ご質問のありました脳卒中等については、搬送時間や治療開始時間が非常に大切になってくるので、さまざまな対応方法が必要になってくると思いますので、しっかりと対応したいと考えております。

また、癌については、二戸地域については、計画期間中にリニアック等の集約というのは、まだ、少し先になるかと思いますが、全体的な考え方としては、高度専門的なロボット手術等を伴う症例は、中核的な病院で手術をした後、薬物療法等は地元に戻って受けられるような体制にしていく計画としております。

○ 田中委員

そうすると、脳疾患、心疾患等については、二戸病院で救急受入れしていただけるということではよろしいですね。

○ 小原医療局長

基本的にその方向で進めていきたいと考えている。

○ 田中委員

救急受入れの際に、救急車内で心電図を撮りながら病院と連携して搬送していると思いますが、その効果を教えていただきたい。

○ 小笠原院長

ご指摘の件ですが、外部との心電図伝送は岩手県で初の試みで、二戸地域で継続して実施しており、先日も新聞掲載がありましたが、例えば心筋梗塞の患者さんが搬送されてきた場合、速やかに循環器内科医師が対応するシステムが完成しているので、安心していただければと思います。

○ 田中委員

非常に良い取り組みをしていると思いますので、出来れば全県的に展開していく方向で取り組んでもらえばいいのかなと思います。

○ 藤原会長

救急車やドクターヘリを使いながら、人命救助に取り組んでほしいと思います。

② 二戸地域県立病院の運営状況等について

二戸病院長・一戸病院長・軽米病院長から説明

[質問・意見等]

○ 佐藤委員

資料の56ページの5持続可能な経営基盤の確立の現状と課題で、「医療機械や施設整備等について一定の投資を継続しながら、県民に良質な医療を提供していくためには、約10億円の純利益の確保が必要です。」と記載されており、現状では赤字というお話がありました。

58ページが一番下のウ 個人未収金の縮減の現状と課題に「令和5年度末で約5億円の過年度個人未収金残高があります」と記載されており、未収金の5億円があれば10億の赤字とならないのではと思いますが、なぜこのような未収金が発生するのか、その点についてお聞きしたいと思います。

○ 小原医療局長

県立病院で約10億円の純利益の確保というのは、県立病院全体で計画年度の最終年度で10億円の黒字にする目標としております。一方で、不採算地域といいますか、県北・沿岸の病院については、なかなか黒字が達成出来ないこともその通りです。そのため一定の基準に基づいて一般会計から病院に補助金をいただいて、なんとか病院運営を続けている状況です。また、病院全体では、(東北本線)沿線の病院に黒字の病院が多いので、県立病院全体で黒字を出していきましょう。それぞれ単年度で10億円の黒字を出しましょうというイメージです。

一方、未収金については、これまで過去何十年と累積してきたもので、様々な要因により支払っていただけてなかったもので、その中には、生活保護でなかなかお支払いをしてもらえないものや、外国人の方で、県立病院を受診した後、そのまま帰国されて回収が難しくなったものもありますが、回収に向けて様々努力しているところであり、単年度で5億円ということではなく、これまで県立病院の未収金として累積してきたもので、すぐに解消することが難しいが、できるだけ解消に向けて努力しているところです。

○ 佐藤委員

そうすると、毎年赤字と出ていますが、そういうのも解消されるわけでしょうか。

○ 藤原会長

先ほどのご説明にもあったと思いますが、職員給与上昇や、物価の上昇等により費用が上がり、入ってくるもの(収入)が少ないので赤字となっているもの。患者さんの未収金については、それとは別の対応で行っているとのことだと思います。

② その他

無し

○ 小笠原二戸病院長

本日は貴重なご意見もありまして、本当にありがとうございます。今後、二戸圏域の県立病院が連携しながら、より良い医療を運営できるように、さらに努力していただきたいと思います。本日はありがとうございました。

(8) 閉会(事務局)